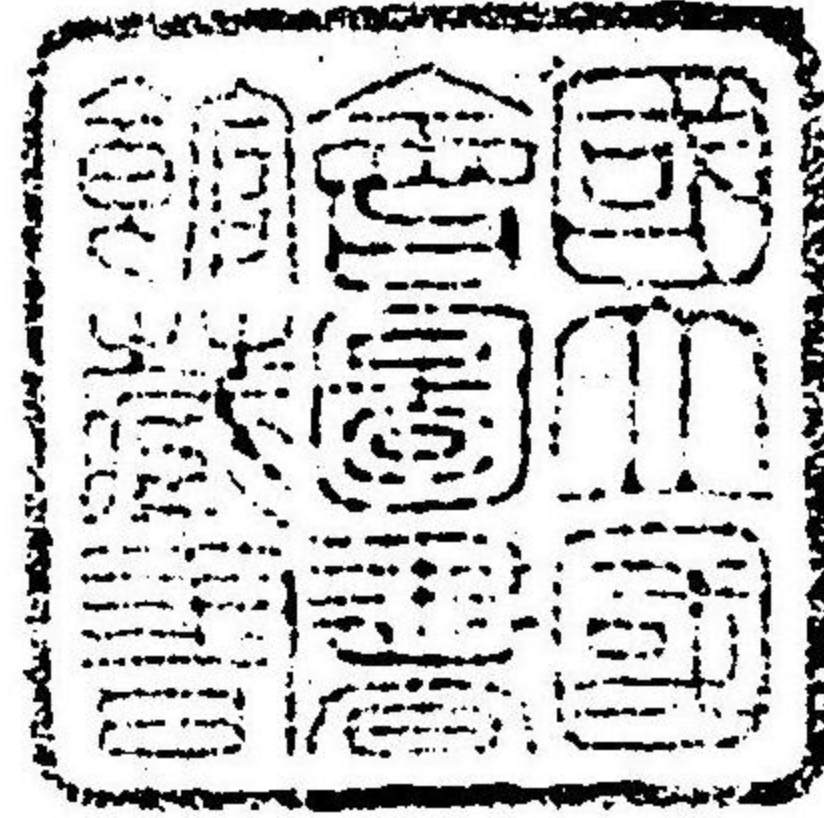


神道名目類聚抄 五

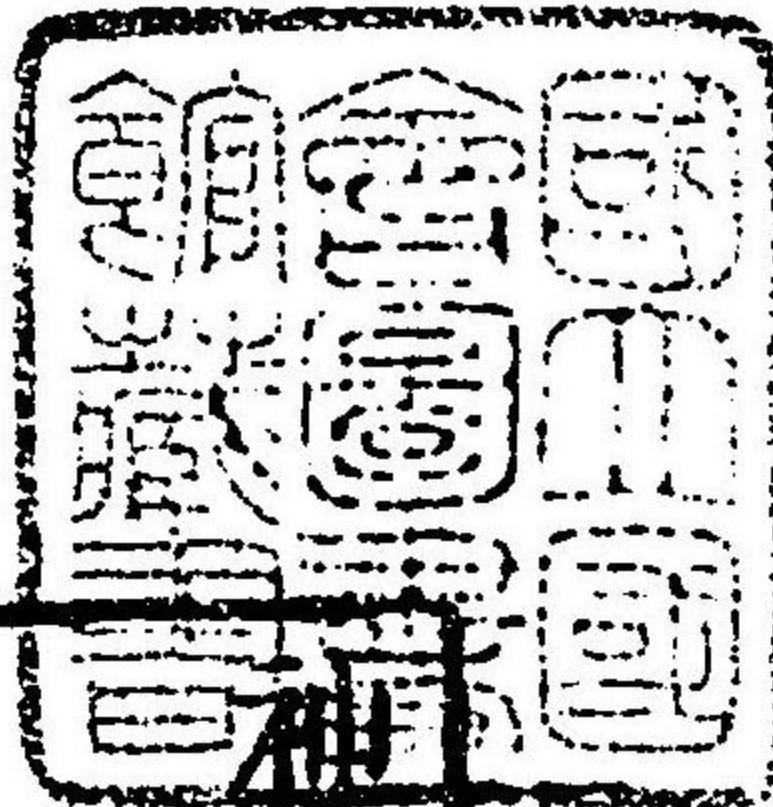
170.

Si511



国立国会
25. 3. 31
図書館

112483



神道名目類聚銀卷五

祭祀部

大祀中祀小祀 神祇令ニ云凡一月ノ齋ヲ大祀トシ二日ノ齋ヲ中祀

トシ一日ノ齋ヲ小祀トス○延喜式ニ云凡踐祚大嘗祭ヲ大祀トシ祈

年月次神嘗新嘗賀茂等ノ祭ヲ中祀トシ大忌風神鎮花ニ枝相

嘗鎮魂鎮火道饗圖轉神松尾平野春日大原野等ノ祭ヲ小祀トス

神拜作法 參詣次第 神前三テ拜揖進退ノ作法ナリ伊勢神宮

ノ法アリト部家ノ法アリ諸家ノ法アリ又一社ノ法アリ其ノ神官等ニ從テ

前後加持左右加持 神拜ノ時沓ヲ著ナガラ一揖スルヲ沓ノ揖ト

云或説ニ此時前後ノ神ヲ念スル事アリ是ヲ前後加持ト云座レテ

揖スルヲ座ノ揖ト云此時左右ノ神ヲ念スル事アリ是ヲ左右加持ト云

拍手 神ヲ拜スル時手ヲ拍事アリカレハテト云○諸社根元記ニ

神名類聚

卷五

云拍手口訣神道灌頂觀想二日神語ニ云天空虛ニシテ晝夜ヲ
運地虛ニシテ草木ヲアラス人無ニシテ動靜ヲナス云皆虛ニシ
テ靈妙アリ手ヲ拍モ然リ掌ノ中一物モナキ空虛ヨリ其音ヲチ
ス是モ亦虛ニシテ靈妙アルナリ歟即神ナリ其神妙拍手ニアラス
ル手其妙ヲ顯サズ其アラスルハ是神道ナリ天地ノ間歟ニアラス
ト云事ナレ神ニアラスト云事ナレ神宣啓祝ニ云神ハ一ニシテ形ナ
レ虛ニシテ靈アリ是ヲ大空一虛大元尊神トマウス亦國常立尊
ト名ツケタテミツル○拍手ノ事別ニ習アリ

ハ開手 短手 延喜式月次祭ノ条下ニ物忌内人等幣帛ノ案
ヲ昇入テ瑞垣ノ内ノ門財殿ニ置奉ル齋内親王并ニ衆官以下
再拜シテハ開手ヲ拍次ニ短手ヲ拍テ再拜カクノ如ク兩遍既ニシ
テ衆官退出云○大田命傳記ニ云豊葦原瑞穗國ノ内ニ伊勢加

佐波夜ノ國ハ美宮處アリト見定給テ天上ヨリシテ投降給天
之逆太刀天逆鉞大小之金鈴五十口日之少宮ノ圖形文形
是ナリトテ天ノ平手ヲ拍タマヒテ甚ニ喜タマフコトカキリナレ云
○或説ニ神ニ物ヲ供スル時ハ開手ト云事ヲシテタテミツルト云
兩段再拜 神ヲ拜スル時先再拜シ祈念畢テ又再拜シテ退是
ヲ兩段再拜ト云

遙拜 遠境ノ神社ヲ詣スレテ爰ヨリ拜スルヲ云
御後 神殿ノ御ウレロノ方ヲ拜スルヲ云
日所作 毎日神ヲ拜シ板等ヲ修スルヲ云

奉幣 幣帛ヲ取持テ兩段再拜シテ奉ラ云
置幣 幣帛ヲ神前ニ備奉テ置ラ云
賦幣 數神ニタテミツル幣帛ヲ一ニツガ子テ兩段再拜畢テ束ヲ

解テ毎座、神ニ賦ソク奉テ云

由奉幣 即位又ハ大嘗會アルベキ由テ伊勢大神宮工官幣使ヲ向テ
シテ告申サルヲ云神祇官ニ行幸アリテ幣使ヲ立ラル本儀ハ大内
ヨリ建禮門へ行幸アリテ行ハル事ナリ然レドモ後ニ奈久院治曆四
年即位ノ時建禮門ナキヨリテ神祇官ニシテ是ヲ立ラレテヨリ以來
流例トナレリ 幼主ノ時ハ攝政神祇官ニ参向アリテ幣使ヲ立ラレ
ナリ當時ハ神祇官モナケレハ座ノ儀ニテニテ幣使下向アル
ト云リ但諒闇ノ時ハ此事ナレ

一社奉幣 指出シテ一社奉幣ト云時ハ伊勢大神宮工官幣使
ヲ向ラルヲ云

七社奉幣 上七社ノ神ニ官幣使ヲ向ニルヲ云

例幣 毎年九月大神宮へ幣使ヲ向ラルヲ云例年ノ儀ナル故ニ

例幣ト云昔ハ上卿王氏中臣ト部齋部ノ四姓其外役人神祇官
ニ参向アリテ事行ハレテ夫ヨリ各勢州へ下向アリレリ此神事久
シク絶タリレテ後陽成院ノ御宇ニ御再興アリテ今ニ行ハル事
ナリサレド當時ハ神祇官ナケレハ吉田ノ神樂岡ニテ其儀式アリ昔
ノ如クニハナクテ畧儀ノ事ナリ勢州へハ祭主事ヲ預リテ下向ナリ
祭主ハ則中臣ナリ餘ノ二姓皆代ヲ用ラルナリ

四度幣 祈年祭 月次祭 雨度 新嘗祭 此四箇度ノ祭ヲ四度

幣ト云此祭ニアツカル社神名帳ニ見ユ

祈年穀奉幣 公事根源ニ云二月七月一度アリ吉日ヲシテ奉ラ

ル二十二社ナリ此二社ハ上ニ見タリ八幡ノ使ハ中納言賀茂平野
松尾春日ハ宰相其外ハ皆四位五位ノ使ナリ二十 社各宣命
アリ伊勢ハ花田ノ紙賀茂松尾ハ紅梅其外ハ黄ナル紙ニ書天武

解テ毎座、神ニ賦ソク奉ラ云

由奉幣 卽位又ハ大嘗會アルキ由ラ伊勢大神宮工官幣使ヲ向
シテ告申サル、ヲ云神祇官ニ行幸アリテ幣使ヲ立ラル本儀ハ大内
ヨリ建禮門へ行幸アリテ行ハル、事ナリ然レドモ後ニ糸院治曆四
年卽位ノ時建禮門ナキヨリテ神祇官ニシテ是ヲ立ラシテヨリ以來
流例トナレリ 幼主ノ時ハ攝政神祇官ニ參向アリテ幣使ヲ立ル、
ナリ當時ハ神祇官モナケバ陣ノ座ノ儀マデニテ幣使下向アル
ト云リ但諒闇ノ時ハ此事ナレ

一社奉幣 指出シテ一社奉幣ト云時ハ伊勢大神宮工官幣使
ヲ向ラル、ヲ云

七社奉幣 上七社ノ神ニ官幣使ヲ向ニル、ヲ云

例幣 毎年九月大神宮へ幣使ヲ向ラル、ヲ云例年ノ儀ナル故ニ

例幣ト云昔ハ上卿王氏中臣ト部齋部ノ四姓其外役人神祇官
ニ參向アリテ事行ハレテ夫ヨリ各勢州へ下向アリレキリ此神事久
シク絶タリレテ後陽成院ノ御宇ニ御再興アリテ今ニ行公事
ナリサレド當時ハ神祇官ナケレハ吉田ノ神樂囀ニテ其儀式アリ昔
ノ如クニハナクテ畧儀ノ事ナリ勢州ハ祭主事ヲ預リテ下向ナリ
祭主ハ則中臣ナリ餘ノ二姓皆代ヲ用ラル、ナリ

四度幣 祈年祭 月次祭 兩度 新嘗祭 此四箇度ノ祭ヲ四度

幣ト云此祭ニアツカル社神名帳ニ見ユ

祈年穀奉幣 公事根源ニ云二月七月一度アリ吉日ヲシテ奉ラ

ル二十二社ナリ此二社ハ上ニ見タリ八幡ノ使ハ中納言賀茂平野
松尾春日ハ宰相其外ハ皆四位五位ノ使ナリ二十 社各宣命
アリ伊勢ハ花田ノ紙賀茂松尾ハ紅梅其外ハ黄丸紙ニ書天武

天皇四年正月諸社ニ幣ヲタテミツラル天慶六年五月年穀ヲ
祈シカ多ク十一社ニ奉幣アリト見タリ

兩社行幸 石清水鴨二所ノ神宮へ行幸アルヲ云

神今食 六月十一日此祭ハ天照大神ヲ勸請アリテ 天子ミツ

カラ神膳ヲソクテ給ナリ年ニ兩度アリ大方 入嘗會ノ神饌ノ義ニ

同ト云リ昔ハ八省院ニテ此事アリ後ニハ神祇官ニテアリシト

云元正天皇靈龜二年六月ヨリ始ル

大嘗會トモ 天子御一代ニ一度ノ大祭ナリ即位アリテ

ハ必是アリ即位七月以前ナレバ當年行セラル又八月以後ノ

即位ナレハ明年行セ給悠基主基ノ兩神殿ヲカマヘテ悠基基殿

ニテハ天神ヲ祭主基殿ニテハ地祇ヲ祭 天子御手ツカラ神膳

ヲ備進ラルナリ事ハ延喜式ニ見タリ重御傳授ノ事トモアリト云

リ此御神事四百年來断絶アリシヲ 今上皇帝即位ミレテ

御再興アリ四海平安ノ御レレ誠ニ有難御事ナリ禁裏近幸

佛閣ニテハ御神事一月ノ間ハ諸ノ法事ヲモ停止セシレ僧尼其

外不淨ノ輩ハニ及ズ薙髮ノモノハ醫師ニテモ禁外四門ノ内へ

ハ出入ヲ止ラレヌ嚴重ノ御神事ナリレ

新嘗祭 新嘗會トモ 十一月中ノ卯ノ日此祭ハ當年ノ新穀ヲ諸

神ニタテミツリ給フ祭ナリ新嘗祭ニ預給フ神社神名帳ニ見ユ大

嘗會ハ 天子御一代ニ一度ナリ新嘗祭ハ毎年是アリ用明天皇

ノ四月ヨリ始ル此事モ久シク絶タリシニ 今上皇帝大嘗會御再

興アリテヨリ以來例年吉田ニテ行ハル總テ神官等新嘗祭ニテ新

飯ヲ食ハサル由御鎮座傳記ニ見ユ

相嘗祭 相嘗會 十一月上ノ卯日七十一座ノ神ヲ祭其神ハ神祇

部二見ユ

神嘗祭 九月十一日大神宮ノ例幣是神嘗祭ナリ

神衣祭 四月九月兩度ナリ四月ニハ夏ノ御衣ヲ織テタテミツリ

九月ハ冬ノ御衣ヲ織テタテミツル伊勢大神宮ノ神服ヲ供進ス
ルノ祭ナリ和姓衣ハ服部氏荒姓衣ハ麻績氏各祭齋シテ祭ノ月
ノ日ヨリ始テ十四日ニ至テ織造是ヲソナヘタテミツル此祭今ハ
絶タリ今俗四月ヲ伊勢ノ御衣ト云是ナリ

祢年祭 二月四月大神宮ヲ始三千一百三十二座ノ神ヲ祭豊年

ナリノ事ヲ祈モト△天武天皇四年二月ニ始ル○延喜式ニ云祈年
祭ノ神三千一百三十二座 大四百九十二座 小二千六百四十座 七百二十七座ハ官幣ノ

以祭 三百四座ハ幣ヲ新上ニタテミツル 四百三十三座ハ幣ヲ新下ニタテミツル 二千三百九十五座國司ノ祭所ナ
リ 六百八十八座 小三千二百七座

鎮花祭 大和國狹狹形社ニアリ 三月ニアリ疫ヲ鎮ル祭ナリ春花ノ散此

疫神分散シテ人ヲワヅラスヲ鎮シタニ此祭アリ宇多天皇寛
平九年三月七日ニ敕アリテ始ルノ由公事根源ニアリ○延喜

式ニ云鎮花祭神一座大神社一座狹井社一座同神名帳ニ
云狹井坐大神荒魂神社五座○按ニ狹井社ハ二輪神ノ荒魂ナ

リ三輪ノ社ヲ去コトニ町許北ニアリ今ハ社断絶ス又三月十日山
州上賀茂ノ里俗紫野今宮ノ社ニ躰來是ヲヤスラヒ花ト云鎮疫

ノ祭ナリト云リヤスラヒ花ハヤスラフ花ニシテ鎮花ノ儀ナラン
鎮火祭 六月晦日は火災ヲ防ク祭ナリ○公事根源ニ云ト部氏

人火ヲ打テ宮城ノ四隅ニテ祭事アリ火災ヲ禦シタメトカヤ此
祭ノ間秘術多ク待ルヨシ承ル○按ニ今ハ此事ナシ

鎮魂祭 此神事延喜式江次第等ニ詳ナリ十一月中ノ寅ノ日行

ハルニアバ初ノ寅ノ日はアリ東宮中宮ニ行ハルナリ御神樂ヨ
 リモ賤シキ事ト云リ○舊事紀ニ云宇摩志麻治命十一月丙子
 朔初テ瑞寶ヲ齋帝后ノオシタメニ御魂ヲ鎮祭壽祚ヲ祈請其
 鎮魂ノ祭ハ是ヨリ始レリ宇摩志麻治命ニ詔レテ曰汝先考饒
 速日尊天ヨリ受來天璽瑞寶是ヲ以鎮トシ年ゴトニ仲冬中ノ
 寅ヲ例トシテ有司事ヲ行ヘ永ニ鎮祭ヲ世ニ所謂御鎮祭是ナリ凡
 厥鎮祭ノ日八猿女君等其神樂ヲツカサドリ其言ヲ舉テ大ニ一
 二三四五六七八九十ト謂テ神樂ヲ歌舞ハ尤瑞寶ニ縁トハ蓋
 コシラ謂カ○此祭今ハ絶タリ魂レゾト云ハ魂散ズバ人死ス其魂
 フシツメ護レバ壽命長遠ナルヨリ鎮魂祭ト云ナリ日本紀ニ招魂
 ト稱ス是ナリ○令義解ニ曰鎮ハ安ナリ人ノ陽氣ヲ魂ト云魂ハ
 運ナリ言ハ離遊ノ運魂ヲ招身體ノ中府ニ鎮故ニ鎮魂ト云○

按ニ公事根源ニ云此事後白河院御脫屣ノ後ニ至テ尚院中
 ニ行ハル東宮中宮年々ニ行ハル天安二年ニ此祭ヲ止ラレ又貞
 觀元年十一月再興アリ神祇官ニテ行ハルソレヨリ年々ニ行
 ハレシナリ

三枝祭 大和國卒川社ニアリ 四月此祭アリ延喜式ニ云ニ枝祭神ニ

座○公事根源ニ云卒川祭ヲ云ヨレ神祇令ニ載タリニ枝ノ花ヲ
 折テ酒樽ニカガル故ニ三枝祭トハ申ナリ此祭若二月ノ卒川ノ祭
 ト同カルベキカ去ナカラ神祇令ニ孟夏ノ祭ノ類ニ載タレバニツソノ

如ク四月ノ所ニ申侍ルナリ云

道饗祭 六月晦日は疫神ヲ鎮ル祭ナリ ○公事根源ニ云是ハ疫
 神ノ祭ナリ毎年必行ハルベキ近比ハ絶テ侍ルニヤ是モト部氏ノ
 人京城ノ四隅ノ路上ニ鬼魅ノ他方ヨリ來ラ京路ニ入サラシメ

シタメニ路上ニ供物ヲ備テミツルナリ

畿内十箇所疫神祭 延喜臨時祭式ニ云山城上近江上ノ界一山

城ト丹波上ノ界二山城上攝津上ノ界三山城上河内上ノ界四

山城上大和上ノ界五山城上伊賀上ノ界六大和上伊賀上ノ界

七大和上紀伊上ノ界八和泉上紀伊上ノ界九攝津上幡磨上ノ界

十〇今按ニ正月十九日ニ八幡ニ行フ疫神祭ハ山城上河内上

ノ界ノ疫神祭ノ遺風ナラシ其外ハ疫神祭アル事ヲ聞ズ

風神祭 延喜式ニ云風神祭ニ座龍田社〇按ニ四月七月兩度

此祭アリ是五穀成就ノタメナリ天武天皇ノ御宇ニ始ル或説ニ神

軍ノ法ニ科戸祭アリ是風神ヲ祭ナリ和軍ニ於テ習アリト云リ

風神祭モ今ハ絶タリ

祈雨止雨祭 昔ハ炎天久ク續又霖雨ヤミサバトモニ耕作ニ害

アル故ニ八十五座神ニ幣ヲ奉テ祈請申サルナリ此ノ神神祇

ノ部ニ述件ノ神ノ中大和國丹生ノ川上ノ神社山城國貴布禰ノ

神社此兩社ハ諸社ノ料物ノ外ニ馬一疋宛ヲ添テタメニツル

但雨ヲ請ノ時ハ黒毛馬雨ヲ止ル祈ノ時ハ白毛ノ馬ナリト延喜式

ニ見タリ又禁秘抄ニ延喜式ノ如ハ祈雨ハ黒毛止雨ハ白毛ナリ

先々沙汰アリ祈雨ハ白毛止雨ハ赤毛云云中古ヨリ流例ナリ

解次祭 六月十二月十一日兩度ナリ是ヲ月次ノ祭ト云大神

官以下其々ノ社ニ幣ヲ奉ルナリ弘仁年中ニ始ル此祭ニ觀ル

社神名帳ニ見ユ是モ今ハ絶タリ

三節祭 太田命傳記ニ云古語ニ云吉祥ノ麩腹ニ耳露ノ酒ヲ瀟

テ名テ神酒ト號スニ節ノ祭ニ獻ル〇三節祭ハ兩度ノ月次

祭九月ノ神嘗祭此ニ事ヲ伊勢ノ神宮ニ三節祭ト云

臨時祭 定式ノ外ニ時ニソミテ官幣ヲ以祭ルヲ云後ニ八例ナ

リテ何月何日ハ某社ノ臨時ノ祭ト云今此事多ク多ク冬
冬季祭 山城國鴨下上神宮ニリ更衣ノ神事ナリ下ノ神宮ハ十月ニリ

上ノ神宮ハ十二月ニリ四月葵祭ノ日殿内ノ御装束等ヲ夏ノ
御装束ニ更奉ラ當月冬ノ御装束ニ更納ル是ヲ冬季祭ト云

御蔭祭 山城國高野里ニリ 四月二ノ午ノ日ナリ御蔭ノ神社ハ下鴨ノ

攝社ニシテ下鴨ノ神宮ヲ去コト一里許比磨山ノモナリ祭禮ノ

日下鴨ノ神宮ヨリ神馬ニテ彼社ニ神幸ナリ伶人路次ノ間馬上

ノ音樂アリ神宮騎馬ニテ供奉ス葵祭アルハ必此御蔭ノ神事行

ハル事ナリト云リ是ヲ下鴨ノ御生上云濃秘ノ祭ナリ葵祭御再

興ノ年ヨリ同ク此祭舊ニ復レリ

葵祭 下神宮上神宮同 四月二ノ酉ノ日ナリ下上ノ神宮同日ナリ

敕使近衛ノ次將ナリ是ヲ近衛使ト云内藏寮ノ御幣御馬東遊

走馬ヲタテツル内藏寮史生馬寮伶人陪從參向ス山城介

神事ノ警固ヲテ檢非違使非常ヲ御車ヲイラセラル

車ト云下ノ神宮ヲ先ニシテ上ノ神宮ヲ後ニス御神事等下上

相同前日 禁裏院中ハ社家ヨリ葵社ヲ献上此祭二百年來

絶タリシラ 今上皇帝ノ元祿七戌年御再興ナリ

常陸帶祭 常陸國鹿嶋神宮ニリ 正月十日常陸帶上云神寶アリ鹿

嶋神宮ニ傳ヒリ一社ノ深秘ニシテ他更ニ知事ナレ上ナリ毎年寶藏

ヨリ出シタテツリ神事アリ是ヲ常陸帶ノ祭ト云往々歌ニヨスル

常陸帶ハ是ナリ

部靈祭 同鹿嶋神宮ニリ 七月七日部靈上ハ鹿嶋ノ御神ノ御劍ナリ

事ハ神寶 毎年寶藏ヨリ出シ奉テ神事ナリ辨ヨリ拔出シ奉リ神

ノ卷ニ述

官等是ヲ拜ス長サ五尺余許アリ此日參詣ノ諸人皆乃服指ヲ
鞘ヨリ拔出シテ手ヲ舉テ是ヲカサシ神前ニ進至ルト云

坑摩祭 近江國坂田郡坑摩社ニテリ 四月朔日昔ハ此祭ノ日女ハ逢多夫

ノ數ホト鍋ヲ頭ニイタキカツキテ祭ニワタリトナリ由意ツミヒラ
カエラス今ハ此事絶タリ○拾遺集ノ歌ニアフミ丸ツクミニツリ
ハヤセテシツレキ人ノ銀ノカズミシ

直會祭 尾張國中嶋郡國形宮ニテリ 正月十一日神官旗ヲ立路邊ニ

出テ往來人一人ヲ捕ヘ來沐浴ヲサセ身ヲ清テ淨衣ヲ著セ神
前ニ率行末那板一器木ニテ作レル庖丁生膾箸等ヲ設置又
別ニ人形ヲ造テ右ノ捕ラタル人ノ代トシテ是ヲ二十板ニス同彼
撒シ人ヲ其傍ニ居シテ神前ニ備進スルコト一夜明朝神官來テ
神前ヨリ右ノ備物人トモニ撒シ土ニ餅ノ如キノカタキヲ造テ彼

人ノ背ニ負セ青銅一貫文ヲ以テ前ニカケ追逐走テ必倒絶入ス
暫アリテ正氣出テ元ノ如シ則走退其倒レ處ニ塚ヲ築テ土ノ餅
ヲ納ム此神事社家ニ傳テ濃秘ス頃年飛脚ノ者ヲ捕テ討討
ニ及上云夫ヨリ以來飛脚等ヲ捕ル事ヲ止ヌ此神事例年行ハ
ル故ニ人知テ今日往來スル人ナレハ近郷ノ民家ニ入テ捕フ
上云十一日捕ヘガバ十二日ニ至テ捕來上云

宇賀神祭 福祿幸ヲ祈神事ノ行法ナリ

子祭 十一月子白大黒神ヲ祭是ヲ子祭上云大黒神ハ大國玉

命ナリ此神鼠ノ愛シ給鼠大國玉神ノタヌニ功アル事舊事紀古

事紀ニ見ユ鼠八十二支ノ中坎ヲ以配合ス十一月子ノ月ニアタル故

ニ此神ヲ祭ニ此月此日此刻限ヲ用ルナリ

北斗七元祭 北斗ノ星ヲ祭行事ナリ

星祭 年星ヲ祭行事ナリ多クハ節分ノ夜コレヲ祭或ニ云件ノ雨

祭ハ陰陽家ノ法ト云リ

招魂祭 人死スル時魂散ス故ニ魂ヲカヘシモツクル祭ナリ陰陽家

亦此行事アリ招魂續魂ノ法ト云

禊祓祭 竈神ヲ祭事ニラズ是人ノ身體ニ備ル神アリ此神アル

時ハ必病ヲ生シ災至ル故ニ是ヲ祭ラ荒神祭ト云別ニ波祓ノ

義アリト部家鈔ニ云人ニ九萬八千五百七十二ノ荒神アリ是

如影隨形ナリ其眷屬九億四萬三千四百九十一神アリ一竈ニ

一千六百十九神ツナリテ九竈ニ六合テ一萬四千五百七十二

神ナリ口ノ一竈ニ一神多故ニ總數ニテ一神多シ又八萬四千

ノ毛孔ニ八萬四千ノ神アリ九竈ノ神ト毛孔ノ神ト合テ九萬八

千五百七十二神ナリ人身ニ生ズル毛頭ニ此神ニシテセリ毛頭

ハ外毛根ハ内ニヨモルナリ毛頭ノ根ノムホシヌ時ハ癩ナシ一念亂テ

氣ノ迷倒スル時ハ毛頭ノ根ムホルナリ云

地鎮祭 安鎮祭 居宅ヲ建時必其土地ヲ祭亦新ニ土地ヲ購

其地ヲ鎮祭是ヲ地鎮祭ト云俗ニ地祭ト云又居宅造作野テ

祭ル是ヲ安鎮ト云トイフ

日待 日天拜ト云 月待 月天拜ト云 日待ハ前夜ヨリ潔齋シ明旦ノ時

出テ待テ拜ス月待ハ早朝ヨリ潔齋シ月ノ出ルヲ待テ拜ス故

ニ此名アリ拜スル法別ニ習アリ

庚申待 庚申ノ日晝ノ申ノ刻七ツヨリ始テ夜ノ寅ノ刻七ツニ至ル七

刻ノ間ヲ待テ猿田彦大神ヲ祭供物七種ヲ備進ス○或云庚

申祭ハ本朝ノ儀ニアラス道家ニ此事アリ太上感應篇修眞捷徑

ナドニ見ユ庚申ノ夜寢レハ三尸虫ノ命ヲ短クスルトテ道家ニ夜ヲ

宇ヨトアリ又佛家ニ青面金剛ヲ庚申ニ祭俱ニ本朝ノ儀ニアラ
ズ上云リ按ニ我朝庚申ノ日猿田彦神ヲ祭コト古ク傳來リト部
先哲ノ秘記ニ庚申ノ日猿田彦大神祭事神秘ノ子細アリ云此
神御像樹ノ如クミシス上云ラ以庚申ノ神ナリト附會スルニアラ
ズ此日此神ヲ祭事良ユヘアリ上云リ私ニ神慮ヲハカル事ナカレ道
家佛家ノ儀ト其意雲泥ナリ

放生會 山城國別山八幡宮ニアリ 八月十五日此會ハ元正天皇御宇
養老四年九月外賊襲來ノ時八幡宮ノ御神カヨリテ異賊ヲタ
マスク退給其後大神神託アリテ此會始リス十五日未明ニ神輿ニ
テ山下ニ神幸ナリ終日會式ノ儀行ハレテ暮ニ及テ山上ノ本宮ニ
遷幸ナリ延久二年ヨリ行幸ニ准ゼラレ上卿六衛府以下参向アリ
供奉セラル事ナリ十六日ニ放生アリ魚ヲ河ニ放鳥ヲ野ニ放魚鳥

數百喉ナリ○此會久ク絶タリシヲ延寶六年壬午年ニ御再興ナリ

御靈會 山城國赤都ナリ 紫野今宮ノ御靈會五月九日○諸社根元
記ニ云一條院長保二年五月九日庚辰今日紫野ニ於テ疫神御
靈會ノ事アリ仍テ兼日神殿三字瑞垣等木工寮修理職造備
ル所ナリ又御興ハ内匠寮コレヲ造同寛弘二年五月九日紫野ニ
於テ疫神祭ノ事アリ件ノ祭ハ長保年中ニ始ル所ナリ又說ニ云正
曆五年六月廿七日疫神ヲ船岡山ニ安置セラル長保二年五月
九日疫神ヲ紫野ニ遷坐セシテ齋師ノ衆庶御靈會ヲ行フ此
所ニ遷サル事夢想ノ告ニヨリテナリ云當時ハ五月十五日此會
リ今宮祭上云

○此雲路八所ノ御靈會五月廿日ナリ○清和天皇貞觀五年五
月廿日神泉苑ニ敷シテ御靈會ヲ行ハレ但八所ノ内六神ヲ神

泉苑ニ祭ラル六神ノ事三代實錄ニ見ユ上下ノ御靈社鎮座本縁
俱ニ同ト云或説ニ云五月廿日ノ御靈會ハ下御靈社ノ神事ナリ下
御靈則貞觀年中神泉苑ニテ御靈會アリシ六神ヲ祭ル社ナリ
故ニ若宮御靈ト稱ス後三神ヲ添祭テ八所ノ神鎮坐ト社ト同シ
○祇園社ノ御靈會ハ六月十四日○舊記ニ云人皇六十四代圓融院
ノ天祿元年六月十四日始テ御靈會今歲ヨリコレヲ行フ○按ニ天
下疫癘流行スル御靈會ヲ行テコレヲ行フ此會ハ鎮護神ノ祭ナリ
御引神事 諸社多ク正月ニ此神事アリ亦是ヲ御結トモ奉射ノ神
事トモ云五色ノ的ヲカケ櫛ヲ立注連ヲ設木ニテ弓ヲ射テ神官
等はヲ射ルリ其儀式秘例ノ法アリテニ定ラズ
御粥神事 河内國牧岡社ニテリ 正月十五日神供所ニ於テ小豆ノ粥ヲ煎
テ年穀ノ吉凶ヲ占フ是ヲ五穀吉凶ノ粥ト云神社啓蒙ト云近來

流布ノ書ニ是ヲト田ノ祭ト云由云レド其所ニテ左云名目ハキ事也
平賀神事 攝州佳音社ニテリ 毎年二月初年祭十一月新嘗祭兩度此
神事アリ春ハ二月朔日冬ハ十一月初ノ子ノ月住吉ノ神官和州香
山ニテ取來テ平瓮ヲ造テ祈年新嘗ニ大神ヲ祭南ノ神館上云
所ニテ此事アリ俗ニ土ノ餅ノ祭ト云神功皇后田裳見宿禰ニ載シ
テ此事ヲナサシメ給例ト云リ田裳見宿禰ハ津守神主ノ祖ナリ
○按ニ神武天皇香山ノ土ヲ取天平瓮ヲ造テ天神地祇ヲ祭給
ナリ事ハ祭器ノ部平瓮ノ下ニ述
氏之小宮神事 近江國多賀社ニテリ 十一月二ア午ノ日多賀社東北ノ
方一里許去テ栗栖ト云所ニ社アリ多賀ノ大神神馬ニテ神幸ナ
リ神官等皆騎馬ニテ御鉾等ヲ持テ供奉ス是ヲ日之小宮ノ神
事ト云一社ノ渡秘アル由云リ

加羅佐手神事 出雲國秋鹿郡佐陀社ニリ 十月ニ神事アリ 社家傳來ニ云
當社ハ伊弉諾伊弉册ニ神ノ鎮座ナリ 是諸神ノ大祖ノ神ニミシ
ス十月ハ陰神伊弉册尊歳ニ八月十六諸神此社ニ會集給 是故
ニ當所ニ於テ當月ヲ神在月上云此神事ニ種々神異アリ 就中
十一日ヨリ十五日ノ間ニ海上ヨリ小蛇一疋白浪ニ乘テ濱邊ニ寄來
ル是海神ヨリ佐陀社ニ獻上物ナリ上云其大サ一尺ガリ 金ヲ以
彩色ガ如ク甚美麗ナリ 是ヲ龍蛇ト云神官等潔齋シテ濱ニ出
テ其來ルヲ待テ海濱ヲ以手ニ受龍蛇來テ其藻ノ上ニ曲居則
神前ニ備進仕古ヨリ今ニ至テ例年絶ス誠ニ神異ノ事ナリ 是ヲ
加羅佐手ノ神事ト云一説ニ素戔鳴尊殿之川上ニテ八岐大蛇ヲ
退治シ給シ由意ヲ後世ニ示ノ儀ト云○素戔鳴尊大蛇ヲ断ス
フ劍ヲ一三轉劍之劍ト云加羅佐手ハ其轉語ニヤ

和布布神事 長門國萩目關波夜度毛社ニリ 十一月晦日ノ夜丑ノ刻

潮ノ退ヲ待テ神官海底ノ海布ヲ布テテ號ル元朝神前ニ滯進故ニ
俗ニ和布布ノ神社ト号ス○長州ノ人曰和布布ノ神事當國龜山
入幡宮ニモアリ社モ海邊ナリト波夜度毛社ト相向テ其間海上ニ
里許アリ互ニ社頭相見ニ龜山ノ社モ和布布同日ナリ 醫委コトハ龜
山ノ方ニアリトソ

稻垣神事 大和國三笠山春日社ニリ 毎年二月十一月上ノ申日上卿參
拜アリテ神前ニ著座シ給時瑞籬ニ稻ヲ掛ルナリ 是ヲ稻垣ト云俗
ニ稻掛ト云リ○按ニ二月八新年十一月ハ新嘗ナリ此故ニ稻ヲ神
前ニ多クテニフルナリ

御棚昇 二月十一月上ノ申日上卿參拜アリテ 祭裏ヨリ供進シ給
神供ヲ八脚ノ机ニ設テ上卿ト辨ト是ヲ昇テ神前ニ供進シタマノ

辨ノ参向ナクハ上卿ト神主トコレヲ昇テ備奉ル是ヲ御棚昇ト云大
原野社ニモ御棚昇ノ事アリト舊記ニ見ユ

神樂 按ニ天鈿女命ノ石戸ノ前ノ俳優ヨリ起レリ○御鎮座本記
ニ云凡神樂ノ起ハ在昔素戔嗚尊日神ノ奉爲ニ行甚アチキナレ
種々ニ陵侮トキニ天照大神イカリ給天石窟ニ入ミシ警言ヲ聞テコ
モリノス爾乃六合常闇ニシテ晝夜ノワズダスアラス群神多チ愁迷手
起屠ナレ凡厥庶事燎燭テワキニフ天御中主神ノ太子高皇產靈神
命宣ヒテバ十萬神多チテ天八瑞河原ニ會テ深ク思遠慮テ天石
窟戸ノ前ニ庭燎ヲ舉畢テ俳優ヲナシテ猿女君ノ起天鈿女命天
香山ノ竹ヲ採其節間ニ風孔ヲ雕マワラケル氣ヲ通シ今世世世ハ幾是
ナリ亦天香弓興並絃ヲ叩シ今世世世琴其樂ナリ木々合々テ安樂ノ
聲ヲ備和氣ヲウツシ八音ヲアスハシ即猿女神手ヲ伸聲ヲ枕或

ハ歌或ハ舞清浄之妙音ヲアラハレ神樂ノ曲調ヲタテミツル此時テ
ア多ク多チテ神ノ怒ヲ解云

○御神樂ハ十二月吉日ヲ撰テ内侍所ニ御神樂ヲ奏セラル 一条院
ノ御宇ヨリ行ハル隔年ニ行ケルヲ長保年中ヨリ毎年ニ行ヒ給フナ
リ又内侍所ノ御修理ナドアリテ遷座ノ後ニ三箇夜ノ御神樂アリ
擊永ノ亂ニ内侍所西海へ渡御アリテ二年ヲ經テ遷幸ミシケル
時三箇夜ノ御神樂アリ是臨時ノ義ナリ又常ニ臨時ノ御神樂ハ
秋ノ末ニ行ハルナレハ名ハ臨時ナレド今、定ヘル事ニナリタリト公事根
源ニ見タリ

神樂

庭燎

所知如作法

採物歌

東遊

求子

駿河舞

○大々神樂

勢州神宮ニ是ヲ行フ

○里神樂

凡テ諸社ニテ行フ神樂ヲ云ト云リ

湯立

湯立ハ天鈿女命天石窟ノ前ニテノ俳優ノ餘風ニテ神慮ヲヨ

ロヨバシルノ神事ナリ竹ノ葉ノ取持ヲ手草ト云舊事紀ニ所謂竹ノ

葉缺戀ノ木ノ葉ヲ以手草トシトアル是ナリ足拍子ヲ踏ハ火處焼覆

槽置ノ義ナリ熱湯ニ浴スルハ誠心ヲ盡ノ誓ナリ古語拾遺ニ覆壺

注ニ誓約之意ト見タリ

流鏑馬

諸社祭禮ニ多ク此事アリ的ニテ馬場ノ所々ニ立置射手

馬ニ乘行騰ヲ着鏡笠ヲ着馬ヲ走テ乘チカラ是ヲ射ルナリ 天

武天皇騎射ヲシタミシヨリ起リテ祭禮ニ此事ヲナスナリ

走馬

鴨葵ノ御祭ニ是アリ氏人等ノ若輩是ヲ乗昔ハ官人乗ト云

下上ノ鴨ニハカギラス其々ノ神社ヘモ進セラレケト今ハ絶タリ鴨下

上ノ神宮ニハ祭御再興以來例年ニ東遊走馬等アリ

競馬

五月五日上賀茂ノ神宮ニアリ馬ニ疋ヲ番テ是ヲ走ラシ

ム疾馳ルヲ勝トス當月朔日ニ馬ヲ乗是ヲ足掬ト云是ハ五日ニ番

ベキ馬トモノカケノ遅速ヲ多クシテソレニツカウベキタメトカマ昔ハ下

ノ神宮ニモアリト云氏人等是ヲ乗飲咄天皇ノ御宇此神事ヲ

始ラルト云

遍昭院贊

大和國春日社ニアリ十一月春日ノ若宮ノ御祭ニアリ十一月

廿一日ヨリ遍昭院ト云齋館ニテ贊ヲ調進ス贊ハ狸兔雉鯛ナリ

昔ハ種々ノ物アリト云當國ノ侍長谷川氏ノモノ此事ヲツトム廿一

日ヨリ御祭ノ當日廿七日ニテ遍昭院ニ齋齋ス贊ヲ掛ナスハ眉故ニ

俗ニ遍昭院ノ掛物ト云

粟種神供 山城國北野宮ニアリ二月廿五日西京ニ居住スル北野ノ神官等

御饌ノ上ニ菜ノ花ヲサレテ備進ス是ヲ菜種ノ神供ト云菜ノ花
イニ夕咲サレバ梅花ヲ用ル例ナリ由意イニ夕詳ナラス

粟津神供 近江國粟津野ニアリ 四月二ノ甲ノ日日吉ノ祭禮ニ神輿唐崎

ニ船ニテ神幸ナリ粟津ノ里ヨリ粟ノ御料ヲ調テ船ヲ飭テ是ヲ唐
崎面ニテ備進ス日吉御饌座ノ始恒世ト云人粟ノ御饌ヲ船中ニ

テニイラセケル遺意ナリ御饌所ノ社粟津里ニアリ其所ノ膳所ト云
社ヲ田端社ト云恒世社ハ松本ノ湖邊ニアリ恒宮ト云此社今松本

ノ社ノ傍ニアリ昔ハ松本村ト膳所ト隔年ニ神供ノ事ヲ勤ルヨシ
舊記ニ見ユ中古以來松本村ニ絶ヌ

大津賢木 近江國大津野ニアリ 四月二日ノ夜日吉社ヨリ賢木大津ノ

里ニ來リ同月二ノ甲日日吉ノ祭禮ニ大津ノ里人件ノ賢木ヲ日

吉ノ社ニ送是天智天皇ノ御宇日吉ノ大神湖南ニ現形ミレテ
ツイニ比叡山ノ麓ニ鎮座シ給ヘリ大神琴御館宇志九ニ託宣

初ハ日吉社家ノ祖ナリ 汝毎年ノ今日我ヲ祭レト夕マヒキ此由意ニ依
テ大津ノ里ヨリ賢木ヲ以祭是往昔日吉神大津ヨリ山下ニ神幸

ノ儀式ナリ是故ニ大津ヲ日吉ノ第一ノ神人トス是ヲ生得ノ神人
ト云則大津ニ祭禮ノ總政所ヲ置是ヲ生得長者ト云總テ四月

ノ祭ノ事ヲ棟梁ス或云後ニ条院教アリテ延久年中ニ始テ此
職ヲ置又賢木ヲ立テ日吉神ヲ祭是ヲ大賢木本ト云リ○今

按ニ近比彫刻スル神社便覽神社啓蒙ト云書ニ四宮ハ日吉ノ賢
木殿ナリト云ハ非ナリ賢木殿ト云齋館今ハ絶タリ四宮ノ神官總

政所ノ職ニ預ル中古件ノ儀式絶テヨリ賢木ヲ四宮ノ社中ニ安

蓋ス是ヲ思フヤマリテ四宮ヲ日吉ノ賢木殿ト云欲日吉下四宮
大別ニ由縁ノ旨アリ上リ

山崎山城國山崎ニリ四月三日昔八例年是アリト云今ハ絶テミレ
ニ行フ八幡宮山崎離宮ヨリ男山ニ遷幸ノ儀式ナリ是ヲ日使
ノ神事ト云○山崎離宮日使神事記ニ云貞觀二年庚辰二月九
日ノ夜離宮ヨリ兩輪耀出現一輪ハ男山ニ遷坐是ニヨリテ
使木ユ權頭從五位下和氣彥範同四月男山遷宮其儀式今
ノ日使ナリ日使ハ八幡宮第一ノ神事トス山崎ヲ根本生得ノ神人ト
號ス祭禮ハ治承三年ニテ敕使祭禮トス同四年ノ亂ニ依テ遷
轉ノ刻芥賣瓦屋關戸院 敕裁ヲ成下サレ在地ノ神人トシテ
是ヲツトム然間交野ノ士民御先ノ役トス須彌寺ト號シテ白
杖ヲ捧鳥羽木津等ノ村ヨリ年頭馬長ノ役御子舞人次第司

藏人司先ニ行色掌人傳ヲ吹鼓ヲ打云○山崎ノ神人日使ノ
祭ノ頭ヲツトムル故ニ日ノ頭ト云頭ヲツトメシ人ヲ日ノ長者ト云
一郷ノ上首トス先々頭ヲツトメタル衆中ヲ長者衆ト云

安居頭 同男山八幡宮ニマリ 十二月ニ此神事アリ毎年是ヲ執行ス
昔ハ七月十五日行ヒケルトナリ八幡宮ノ神人此頭ニテタリテ是ヲツ
トム八幡宮招請シタテマツリテ祭奉ル儀式ナリ由意イマタ分明ナ
ラス一説ニ八行敷宇佐宮ニ於テ勸修セシノ由來ナリト云リ

蓮華頭 近江國竹生嶋ニナリ 六月十四日當國淺井郡ニ於テ當ル人ヲ
撰テ此頭ヲサス縣シキ神事九故ニ毎年ハナキ事ナリ五十年カ
三十年ノ間ニ一度行ハレテ定ル式年ナシ續錦ヲ以船ヲカザリ頭
人ノ夫婦此船ニ乘テ竹生嶋ニ詣ス夫婦ノ裝束行粧等定ル式
法アリ甚美麗ナル事ナリ蓮ノ花ヲ造リカガルヨリ蓮花ノ頭ト云トナ

リ是竹生嶋ノ神社ノ祭ナリ頭ヲツトメタルモノヲ其所ニ稱シテ蓮
花ノ長者ト云テ一郷ノ上首トス

午頭 同多賀社ニテアリ 四月二ノ午ノ日ナリ毎年執行ス此頭人ヲ
定ル事正月二日夜ニ入テ神官等社頭ニ詣テ御聞ヲ以テ神慮ヲ
窺ヒ是ヲ定則其夜神官神ヲ以テ彼頭ニアタル家ニ立ル祭禮ノ
ツケ物等ニテ皆彼頭人はヲツトム頭人ハ祭禮ノ當日四位ニ准
シ衣冠ニテ社頭ニ參詣ス是舊例ナリ其行粧甚夥シ此頭ヲ多
賀近郷三箇所ニ於テ當ル人ヲ撰テ是ヲ附ス一郷ノ頭ニ年々ニミ
ハリキタリテ例年絶事ナレ是ヲ午ノ頭ト云聖俗午ノカニト云又同國
栗本郡印岐志呂社尾張國熱田社等ニモ午頭アリ
御葦流 尾張國津嶋祇園社ニテアリ 六月十四日葦數千ヲ束テ鎮疫ノ神
事ノ具トス件ノ葦ヲ河海ニ投ス其流寄處必疫癘アリト云葦畢

テ被具ヲ水ニ流是常ノ義ナリ是ヲ津嶋ノ御葦流ト云

神輿洗 山城國祇園社ニテアリ 五月晦日六月十八日兩度アリ暮ニ及

テ神輿ヲ四條ノ川邊ニ昇出シ水ヲソクキテ被清 四條ノ流ニ條ノ下

松原ヨリ上ノ方是祇園社ノ後川ナリ宮川ト云 翌朝六月朔日神輿ヲ飭

神前ニ居奉ル是祇園會式ノ初ナリ同七日四條京極ノ御旅所ニ

神幸ナリ同十四日御靈會神樂苑ニ振奉ル則其日本宮ニ歸座

又同十八日御饒ヲ撤シ神輿ヲ四條ノ川邊ニ昇出シ水ヲソクキ

被清ル事五月晦日ニ同シ本宮ニ歸テ神輿舍ニ納△是ヲ祇園ノ

神輿洗ト云

北野御手水 山城國北野森宮ニテアリ 七月六日聖廟ニ御手水ヲ備進御水

桶御酌ヲ添御手洗ノ盤等ヲ殿内ニタテニシテ神異ノ事多クト云

白鬚開帳 近江國打風白鬚社ニテアリ 八月五日神殿ノ御戸ヲ開御神ノ事

像ヲ拜ス延曆寺ノ衆徒參向シテ八幡ヲ執行近郷ノ貴賤群ヲナス
稻荷社御嶽詣 山城國稻荷社ニテリ二月初ノ午日は當社當山ニ御
影嚮ノ日ナリ巳午兩日詣ス今初午參詣ト云稻荷ニ座ノ神始ハ
山上ニ御鎮座ナリ今ノ社地ヨリ二十町許山上ナリニテ峰ア三箇山
上云御鎮座ノ跡今尚存ス毎年正月五日神官等登山ニテ注連
ヲ張是ヲ御シメハリト云昔ハ御嶽詣トテ山上ハ貴賤詣テ杉ノ枝ヲ
手折來リテ守トス夫木集ニ月ヤ今月初ハノルレトテ稻荷ノ杉
ノモトツ葉モテレ又平清盛熊野山ニ詣レケルニ其際ヲウカビテ右
衛門督信賴源ノ義朝ト心ヲ合テ隱謀ス走馬ヲ以清盛ニ告是
ニヨリテ道路ヨリ引及シ歸洛シテスクニ稻荷ノ社ニ詣テ杉ノ枝ヲ折テ
各鏡ノ袖ニカシテ都へ入ト云事平治物語ニ見タリ今ニ社家ヨリ杉
ノ枝ヲ守ニソエテ出ス〇一説ニ稻荷ニ座ノ神山上ニ鎮座アリレヲ弘

法大師今ノ地ニ遷テ田中社四大神ヲ添祭テ五座トスト云リ延喜
式神名帳ニモ三座トアリ又歌ニモニノ社トヨリ又或説ニ普光院
義教將軍當社ヲ崇敬レ給事餘社ニ勝タリ造營ノ時神慮ヲウ
カヒ今ノ地ニ遷給參詣ノ便ヨカラシメトナリ此説ニヨリテ思フニ
三百年來ハ山上ハ詣スル事ハ止ヌト見タリ

天神宮節分詣 帝都五条西洞院ニテリ 節分ニ諸人當社ニ詣テ白米ヲ
求キタリ邪氣ヲ除神藥トシ酒ニ入テコレヲ飲或ハ竈下ニ薫ス宜ナ
ル哉此神ハ少彥名命ニテ本朝醫術ノ祖神ナリ元正御酒ニ入テ
天子キヨシメス白散ハ此神ノ製法ナリト云リ今白米ヲ醫事此由意也
御田植 伊勢 鴨 住吉 春日等ノ社此神事アリ神田ヲ植ル
ノ神事ナリ其儀式社ニトニ替レリ

御火燒 十一月諸社御火燒ノ神事アリ是當年ノ新穀ヲ始テ供進

神事ナリ宮符アリテ是ヲツトムル新嘗祭ト云官符ナキ社ハ其ノ神宮ノ意ニシテ是ヲソナエタテツル是ヲ御火焼ト云神事夜分ニ行フ故ニ庭燎ヲ設故ニ俗御火焼ト云或説ニ御火焼ト陽氣ヲ向相續スルノ神事ナリ十一月一陽來復スル故ニ火ヲ焼テ陽氣ヲ長ゼシメントスルノ義ナリト云此説非ナリ又日神代卷ニ所謂軒遇突智埴山姫ニ娶テ稚産靈ヲ生ト云ノ義ニヨリテ此神事ハ五穀ノ神ヲ祭ノ義ナリト云件ノ兩説俱ニ私意附會ノ義ナリ信用スヘカス○世俗十一月八日吹葦祭ト云世ニ傳昔日帝都三條ニ治工アリ小鍛治宗近ト云更ニ稻荷ノ神ヲ尊崇ス一日當山ノ土ヲ以焼刃ノ用トス遂ニ譽ヲ世間ニ取夫ヨリ以來治金ノモノ其職ニ幸アラン事ヲ此神ニ祈ル此日桑盛ヲル案ニ時庭燎ノ設テコレヲ祭ツイニ呼テ吹葦祭ト云

季忌宮精進 近江國滋賀郡江前ノ人 十一月廿三日

此日終日爨炊ノ物ヲ食共是ヲ季忌宮精進ト云火燧ヲメヌカレノ祭ナリト云リ此事百余年バカリ以前ニテ擧行ヒケルトナリ當世ハ絶テ季忌宮精進ノ名ヲダニ知人稀ナリト古老ノ人語キ又曰此日炊物ヲ食セザル事ニアラス此日殊更ニ火ヲ燒事ヲツシニ無用ノ火ハ其マ、是ヲシヌス事ナリ然ルヲ火物ヲ断コトナリヌト云傳ヘリ由意イガツシビラカナズ此神事ハ四宮ノ神宮傳來スルナリ

西宮忌籠 攝州西宮ニアリ 十二月晦日ノ夜西宮郷中ノ人此夜女ハ家ヲ出テ社ニ參籠ス男ハ家ニ宿ス燈ヲ澹物ノ音ヲヤメテ靜ニス是年ヲ向ル齋齋ノ儀ナリ是ヲイモリト云里俗アヤリテイモリト云

三年齋齋 齋王ニ立給前三年ノ間毎朔日木綿蔓ヲ著テ齋殿ニ參入シタヒテ大神宮ヲ遷拜シ給是ヲ三年齋齋ト云延喜式ニ見タリ

河野後 齋王初齋院ニ入給時麩川（河野）ニ臨テ御後ニ給
 之云野宮ニ入給時モ同シ亦是之ニ度ノ御後ト云伊勢群行ノ
 時ハ西山（檜原）ニ御後ニ給ナリ凡齋王齋齋ノ次第齋王ニ定
 リ給ハ先本宅ニテ一年御齋齋アリ夫ヨリ大内ノ諸司（左衛門ノ陣）
 ナリソリ給テ是ヲ初齋院ニ入上云 一年又野宮ニウツリ給テ一年御
 齋齋ナリ二年メニ齋宮ニウツリ給二年メノ八月ヨリ三年メノ八月
 ニテ野宮ニシテ九月ニ齋宮ニ入御アルナリ
 七瀬御後 百首和歌鈔ニ云河合 一条 土御門 近衛 中御門
 大炊御門 二条何レモ河原ナリ是ハ都ノ内ノ七瀬ナリ耳敏河
 河合 東瀨 松崎 西瀨 石影 大井川是モ七瀬ナリ
 住吉社御後 攝州住吉社ニナリ 六月晦日神輿ヲ住吉ノ本宮ヨリ堺
 宿院へ振奉リ夜ニ入テ還幸ナリ俗ニ天満祭坐摩ノ社ノ祭ヲ御後ト

云ハ誤ナリ

祇園社大後 山城國祇園社ニナリ 十一月晦日夜ニ至テ是アリ尺余許ノ
 後取ノ如クナル木ニ三百本バカリ削カケタルカメアリ是ヲ東テ拜殿
 ノ四方ニ設置テ宮僧讀經シテ後神人件ノ木ノ束ヲ解火ヲツケ
 テ分散ス是喪ヲ鎮ル神事ナリ參詣ノ人は是ヲ受キタリテ其火
 ニテ年始ノ食物等ヲ炊世俗是ヲ削掛ノ神事ト云
 名越後 水無月後 六月晦日閑月アバ後ノ六月晦日ニ行フ古例
 ナリ夏ヨリ秋ニウツルニ夏ノ火秋ノ金ヲ起スル時ナバ此火ヲニヌカシ
 タメノ被ナリ葦ノ輪ヲ一丈五尺ニヨシラステクマリヌケルナリ是ヲスガ
 旗ノ輪トモ云天地一圓相ヲ表セリ手草トテ麻ト葦トヲ取持是
 ヲ持ナガラ輪ヲスケル事ニ反或云ニナ月ノナコシテ被スル人ハチトセ
 ノイノチノフトイナリ此歌ヲ唱ト云又説ニ思フコトニテツキナトテ

麻ノ葉ヲキリニキリテモハラヘツルカナト云歌ヲ唱ルトモ云リ是天
地ノ間樹越ノ難ヲカレ秋ニヤスクト越ノ義ナリ故ニ夏越後上書
名越後上書リ〇ト部兼俱説ニ名越後ハ夏ノ名ヲ越テ相越ノ
對ヲラフ故ニ名越後上云〇後畢テハスガ振ノ輪ヲ水ニ流ナリ
清後 新造ノ神殿又ハ新講ノ神器等ヲ後清ルヲ云其式社ゴトニ
替リアリテ一ナラス又後ノ際ニギテ後穢所ヲ後キヨムルヲモ清後云
御膳後 神供後 徹ザル前ニ後事ヲ以先神膳等ヲ後瀧ヲ云
五行運數後 天ノ五行地ノ五行人ノ五行ヲ唱ル秘文ナリ
千座置戸後 素戔嗚尊ヲ後國ヘヤラフノ時ニ起リ其由意ヲ以
建立スル神事ノ行式ナリ
天度後 後ノ祝文二十八反ニ千六反合テ六十四反修スルヲ云上云
リ天ノ二十八宿地ノ三十六禽ノ數ヲ取トナリ

勝軍治要後 軍陳祈禱ノ祝文ナリ
正義直授後 按ニ神事ノ行式ニ正義直授ノ後トナル時ハ天津祝
詞ノ太祝詞ノ事ヲ宣ト云文ヲ唱ルナリ亦是ヲ善言美詞ノ後ト
云解ハ雜部天津祝詞ノ太祝詞ノ下ニ述
中臣後 中臣上云事ハ則此後ハ箇ノ口訣ノ其一ナリ是ヲ姓氏ニス
ル事ハ舒明天皇ノ御宇ニ天兒屋命十八世孫常盤大連ニ賜テ姓
トス按ニ中臣後ノ祝文ハ神武天皇ノ朝ニ天兒屋命ノ孫天種子命
祖神ヨリ相承ノ道ヲ以是ヲアラハレ天皇ニ奏ス舊事紀ニ服讀天
德子命天神ノ壽詞ヲ奏ス即神世ノ古事ノ類是ナリト云上一
人ヨリ下萬民ニ至ニテ日服護身ノ要文是ナリ〇ト部中臣後
ニ云神武天皇ノ御宇天種子命ノ作ル書ハ神代ノ文字ナリ兒屋
リ十八世常盤大連漢字ヲ以コレヲ書ス

最要中臣祓 中臣祓ヲ略シタル祝文ナリ

三種太祓 天地人三才ノ祓ナリ上云誰人ノ作上云事ノ一々分賜

ナラス古ヨリ傳ル要文ニシテ秘訣アリ

一切成就祓 伊勢神宮ニ修スル祓ナリ

六根清淨祓 ト部家相承ノ祓ノ祝文ナリ作者分明ナラス一説ニ云

常盤大連述作シテ 欽明天皇ニ奏スル所ナリ

三科祓 上津祓中津祓下津祓ト云祝文アリ是ラニ三科祓ト云

願三瀬ノ事ノ文言ニ載ストト部家先祖ノ述作ト云

身曾貴祓 伊弉諾尊ニリギレ給フ由意ノ祝文ナリ又陽ノ身曾貴

陰ノ身曾貴ト云神事ノ法アリ

根元直指祓 天孫降臨ニ給國中ケラフル神ヲ雄カ勇猛尊ト申

神ノ誅ト給平ケクナリヌル故ニ則雄カ勇猛尊ヲ以輔佐ノ神トシ

同殿ニ侍リテ階護リ宮齋ヨリ外ニ離ル事ナカレト 教レ給フ書々

ル祝文ナリ誰人ノ述作ト云事分賜ナラス

講雨祓 雨ヲ祈ルノ祝文ナリ

大祓 六月十二日晦日ノ祓ト云延喜式ニ云六月晦日大祓十二

月ヨリ三准ス云祝詞アリ中臣祓ニ大同小異ナルモノナリ此外四

度ノ祭祈年祭鎮火鎮魂等スヘテ廿四品ノ祝文アリ式ニ出ツ

八箇祝詞 齋部色弗述作ト云天地ノ祝詞陽ノ祝詞陰ノ祝詞

五行ノ祝詞合テ八箇祝詞ナリ

御啓白 ト部家相承ノ祝文ナリ大織冠ノ御啓白ト云

祓神安鎮祭文 竈神ノ事ニアラス人ノ身齋ニソナル祓神祭ノ

祝文ナリ上ニ述タリ 祭文 祝詞 神ヲ祭ノ祝文ナリ其祈ノ事ヲ書シテ神前ニテ讀奉

ナリ祭文祝詞畢竟同儀ナリ

願文 願書 祈願ノ旨ヲ書シテ神ニ奉ルヲ云

禊事 參詣ノ時又ハ神事ヲ行フベキ前身ヲ淨メ淨衣或ハ袴肩衣

ナド著レテ後御被申ヲ取テ身ヲ拂フ云

三種加持 祈禱加持ノ行法ナリ

十二所加持 身體ノ上ニ付テ十二所加持スル事アリ是ヲ十二所

加持ト云

護身神法 神事ノ法ナリ

遷宮 正遷宮 假遷宮 社頭造營アリテ檜殿ヨリ本殿へ遷座アルヲ

正遷宮ト云又本殿ヨリ檜殿へ遷座アルヲ假遷宮亦假遷宮又

外遷宮トモ書

御戸開 神殿ノ御扉ヲ開クヲ云社例ニ神殿ノ御戸ヲ開殿内ニテ神

儀ヲ奉事アリ是等ノ類ヲ御戸開ノ神事ト云

神輿振 駕輿丁ノ神人神輿ヲ昇タテニツリ渡御アルヲ云

後八針行事 伊勢神宮ニ相傳ル所ナリ八脚ノ机一器上ニ八針ノ

幣アリ是ヲ案上ノ幣ト云人形解繩十座木鏡切箱アリ机ノ下ニ

幣アリ案下ノ幣ト云八座木案下ニアリ器物ハ祭器ノ部ニアリ奉

記センモ禁河ノ法ナハ神慮ハカリガタレ後ノ古法ナルケミ

十八神道行事 神道ノ行法ナリ。名法要集ニ云天ニ六神道アリ地

ニ六神道アリ人ニ六神道アリ合テ是ヲ十八神道ト云

火祭行事 神道護摩 ヌトハリ上ニ同シ

宗源神道行事 ヌトハリ上ニ同シ十八神道ヨリヨニ至テノニヲト部

家ノ三壇行事ト云

神宮部 附

齋宮 齋宮トハ天皇即位シタニハ内親王ノイニダ像シタニハザルヲエ

ラヒテ伊勢大神宮ニツカ(奉ラレメ給フ内親王)ニシニサ子バ世次ニヨリ

テ諸王ノ如子ヲ籠ト定テ齋王ニ立給フ是神宮ヲ崇敬ニシメスノ故

ナリ人皇ト代崇神天皇ノ御宇天照大神ヲ大和國笠縫郷ニウツシ

祭タラフ時皇女豐御入姫命ヲ以ツケツリタラフ其後垂仁天皇ノ

皇女倭姫命豐御入姫命ニカハセ給ヒ天照大神ヲ伊勢國五十

餘川上ニ遷鎮奉タラフ豐御入姫命ヲ以齊王ノ始トス土御門院ノ御宇承

元二年後鳥羽院ノ皇女肅子内親王立タニヒテ其後斷絶ス又ハ後

宇多院ノ皇女辨子内親王ニ至テ斷絶スト云

齋院 天皇即位シタニハ皇女ヲ以鴨大神宮ノ齋院ヲ定其ユヒ定

ル事ト如シ伊勢ノ齋宮鴨ノ齋院ト號ス人皇五十二代嵯

峨天皇弘仁年中智内親王ニ始リ土御門院ノ御宇承元二年

後鳥羽院ノ皇女禮子内親王立タニヒテ其後斷絶ス

修 神祇最上ノ職ナリ白川ノ家此職ヲ譜代伯職 敕許ナキウチ

瀧ノ姓ヲ賜リ伯職 敕許アリテ王氏ニ復シ神祇伯某ノ王ト稱ス○

職原鈿ニ云昔ハ諸氏混ジテ任ス或又大中臣ノ氏コレニ任ズ中古以

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

齋宮

神主 一社ノ上首ナリ 教許ノ職ナリ

社務 コトハリ上ニ同シ

慰宮 伊勢禰宜ノ上首ヲ云

大内人 神宮ノ神職ナリ

大物忌 コトハリ上ニ同シ

禰宜 教許ノ職ナリ私ニ禰宜神主ト稱スル事ハ本式ニアラス一社

ノ私ニシテ時ノ義ニアラス

祝 コトハリ上ニ同シ

國造 國造ハ今云國ノ守ナリ出雲國杵築ノ神主紀伊國日前宮

ノ神主ハ則其國造ナリ今尚件ノ兩社ノ神主ヲ國造ト云

忌火 大和國ニ輪社ノ神主近江國ニ上社ノ祝堅ク火ヲ忌テツ

イニ他人ト同火セズ其所ニ是ヲ稱シテ忌火ト云○神社考ニ曰舊

詔ニ云ニ上明神ハ元正天皇養老年中天ヨリ此處ニ降ル名テ曰
本第二ノ忌火ト云

別當 社ニヨリテ別當ノ職アリ石清水ナドニアリ 亦社ヨリ兼枝職掌
人ナト云号アリ

預 正ノ預權ノ預ナド云職 石清水 春日社ナドニアリ○按ニ神

職ノ事正官權官ノ品アリ凡テ神職轉任ノ次第社例ノ法アリテ

一例ナラス某所ニ於テ尋ベシ

社司社家 神宮ノ總號ナリ但職ニアツカルベキ神官ハ社司ト呼職ニ

アツカラザルハ社司ト呼事ナト云是モ社法ニヨリテノ事ナリ

社官 社家ナドニ云ニ同シ神官ノ總號ナリ

氏人 職ニアツカラザル神官ナリ

子良子 伊勢神宮ニツカフル女官ナリ神樂又御饌調進ノ事ニアツ
カル或云子良子ハ鈿女命ヨリ傳ルト云リ

忌子 山州鴨神宮ニアル女官ナリ社司等ノ女子ヲ以コレニ補ス
物忌 常州鹿嶋ノ神宮ニアル女官ナリ殿内ノ事ヲ掌テ神官等ノ上
首ナリ此職ヲ立ルト定ノ事雜部ニ述又伊勢ノ神官ニ物忌ト云ア
リ各別ナリ上ニ述

巫 一殿 後禰 神樂ノ舞姫ナリ亦ハ乙女神樂乙女ナド云湯立ヲツトムルヲ
湯巫上云所ニヨリテ是ヲ一殿上云ハ乙女上云ハ巫八人ツトムル事アリ
是ヲ云トモ云リ又幾禰上云巫ノ事ナリ梁塵愚按鈔ニ云神ノキ
子ハカニギナリ又神ノ御前ニ神樂スルハ乙女ナトキ子トハ云ヘキニヤ
又奥儀抄ニキ子トハ巫女ヲ云ナリ

神樂男 神樂ノ事ニ預ル役人ナリ五人ノ神樂男上云ハ乙女ト云
ニ對シテ云ナリ
湯 男子ニレテ湯立ヲツトムル役人ナリ

宮仕 薙髮レテ社ニツカフルモノナリ且祇園北野ナドニアリ

社僧 釋氏ニレテ社ノ事ニ預ル僧ナリ多クハ神宮寺ヲ預ルモノナリ

社人 神官ノ總號ナリ

神部 コトハリ上ニ同シ神代卷ニ吉備神部ナド見タリ

下司 下部ノ神役人ナリ

神人 コトハリ上ニ同シ又神戶ナドニアル役人ヲモ神人ト云

下神人 下部ノ神役人ナリ○按ニ右ノ外社ニヨリ種々ノ神役人ノ名アリ

附録

御幣使 御年幣使ノ儀ラハ云今九月十一日神嘗祭ノ御使ヲ
ニ云此事已ニ上ニ見タリ

宇右使 上古ハ何事ニツキテモ先宇佐ノ神宮ニ敕使ヲ立テ告給是
ヲ宇佐使ト云男山ニ御鎮坐ノ後ハ男山ノ神宮ニ告タヒテ宇佐ハ

御一代ニ度使ヲ向フルトナリ、

近衛使 鴨養祭ニ近衛ノ次將ヲ使ニ立ラル、云左近衛右近衛半

々ニカハリテ参向ナリ和州春日社ニ季ノ祭ニ近衛使等アリ

官幣使 其ノ神社へ幣ヲ奉リ給フ 敎使ヲ凡テ官幣使ト云

振穂使 大嘗會ノ時御占ニアリタル田ノ相穂ヲ取シムルノ使ヲ云ナリ

神祇官人ノ内長上宮主トテ兩職ノ人執行スル事アリ是ハト部家

一流重職タリ事ハ延喜式ニ見ユ

長奉送使 齋王群行ノ時伊勢ニテ送奉ヲ長奉送使ト云

御前敎使 齋王御禊ノ時河原ニテ供奉スル敎使ヲ御前 敎使ト云

ト部 忌部兩姓 ト部ハ天兒屋命ノ苗裔忌部ハ天太玉命ノ苗裔

ナリ此兩姓神代ヨリ傳テ神祇ノ事ニ預ル○神代卷ニ云太玉命ヲ

シテ弱肩ニ太手繼ヲトリカケテ代御手ニシテ以此神ヲ祭ハ始テ此ニ

起リ且天兒屋命ハ神事ノ宗源ヲツカサトルモノナリ故太古ノト部

ヲ以奉仕シム○夫此兩神ハ諸神ノ棟梁ナリ日神敎レタニヒテ天孫

神佐ノ神トシタラフ人皇ノ始神武天皇ノ朝ニ至テ兒屋命ノ孫

天穗子命太玉命ノ孫天富命御執柄ノ臣トナリテ祭祀ノ事ヲ掌

ル是則朝政ヲ執ノ義ナリ夫ヨリ以來代々兩姓神事ヲツカサトリ

太玉命ノ裔ハ絶ヌ兒屋命ノ裔ハ祖神ノ道ヲ相續アリテ二千一

代大織冠ニ至ル此時其姪意美磨ヲ以祖神ヨリ相承ノ神祇ノ

事ヲ附屬シ給フ意美磨五代ノ孫平磨ト部ノ姓ヲ賜フ是ヲ今ノ

吉田家ノ祖ナリト云兒屋命神事ノ宗源ヲツカサトリ太古ト部

ヲ以奉仕タラフノ故ニ吉田家ハト部ノ姓ヲ相續レ祖神相承ノ神

事今ニ至テ譜代シテ此故ニ諸國ノ神官神事ニヨロサレアル輩ハ

慕キタリテ是ヲ傳習モノナリ

神道名目類聚卷五終

